



# 母の思いは 昔も今も

---

エッセイと詩

---

石下郁子

---

### 母の思いは「昔も今も」

私の母は、姉（伯母）が嫁いだ後弟（叔父）が亡くなったため、家の後を継ぎました。

その母も、二男を数えの4歳で亡くしています。

祖父母がまだ若く元気だったので、実家とは別のところで暮らしていましたが、帰省した時、チーちゃんというその子は青梅か何かを食べて、疫痢になって亡くなったそうです。

私はそれをそのころ近くに住んでいたという母の友人から聞きました。

実家から、力を落とした様子で帰ってきた母が、幼いその子を連れてないのを不審に思い、「あら、チーちゃんは？」と聞くと「死んじゃった」と答えたそうです。もう埋葬も済ませて、実家から住まいの方へもどったのでした。

家に、ベレー帽をかぶっておもちゃのスクーターに乗った、くりくりお目々のその子の写真がありました。

私たち下のきょうだいには、亡くなった兄がいることを、その写真を見たり、母や伯母が時折話すのを聞いて知ってはいましたが、死因については特に考えもせず成長しました。

伯母は利発だった子どもだったと言い、母はその子がごま塩が好きだった、といつも話していました。

「チーちゃん、何を食べるの？」と聞くと決まって「ゴマシオッ、ゴマシオッ」と答えていたと。

「本当にチーちゃんはごま塩が好きでねー」と母はもう悲しみの様子もなく話していました。

でも、その子が亡くなった直後の母の様子をその友人から聞いたとき、母が大変な思いを乗り越えてきたのだということが分かりました。

子どもにとって親は常に強い存在で、自分を庇護してくれるものだけ思ってしまうのですが、何気ない言葉の中にもいろいろな思いがあったのだと、自分も子どもを亡くしてみても理解したのでした。

母の弟は成人してから亡くなりました。

病死だったそうですが、古いことだけに病名については聞かずじまいになってしまいました。もうそれを尋ねられる人もいません。

結婚が決まっていて、お葬式の時、婚約者は（既婚者が結う）丸髷を結ってきた、といろいろなことを話してくれる伯母が繰り返し言っていました。そのことがみんなの涙を誘ったと。

字があまり上手でなかった叔父のために、硯と墨と筆を入れてやったことなども伯母の口から聞きました。大変な出来事だったのだと容易に想像できます。（母は何も言わない人でした）。

祖母は私が小学生の時亡くなりましたが、祖母の口からも亡くなった息子、叔父のことを聞いた

ことは一度もありません。

缶の中にお菓子や飴を入れたものを母から託されていて、私たちは学校から帰ると決まって、祖母の手からおやつをもらったものでした。私は毎日300くらい、肩をたたいてやっていました。

みんな悲しみを乗り越えてきて、そのことを感じさせず暮らしていた、その祖母の生涯も母の生涯も、そして長寿だった伯母の生涯も終わったのだと、女三代の人生を思うときがあります。（伯母には子どもがなく、先に亡くなった私の母、自分の妹の命日と同じ日に亡くなりました。伯母のことも忘れないようにと、何かの計らいだったのでは、と思っています）。

## 詩『衣替え』

---

### 詩 『衣替え』

あの子の

小さなころの洋服を眺めていると、  
あの子は今もまだ元気で、  
どこかに遊びに行っているような気がする。

思い出は今に続くもの、  
今は、  
幸福な未来に続くものだと信じてみたい、  
そう願い続けた月日の重さ。

きょう、  
初夏の光は部屋に明るく、  
吹く風は戸外の木々の葉を揺らす。

雨が多かったあの夏の日々に、  
久々に顔を見せた太陽の日差しを窓辺に見て、  
「あっ、六月だ」とあの子は言った。  
「じゃ、制服、夏服になったね」  
そして黙った。

世界が一切の色彩を失い、  
自分が何ものでもなくなり、  
愛する子どもがいなくなってしまうと嘆いていたのは、この私だったの。  
何十年もがいちどきに過ぎてしまえばいいと、願っていたのも……

かくて足早に月日は過ぎ去り、  
あの日の慟哭は、静かな追憶へとすがたを変えたけれど、  
去っていく子どもと知って腕に抱いて眠った、  
あの時のパジャマを今も着て寝ている。  
十余年が過ぎた今も。

でももう悲しみの涙は流れない、  
ただなつかしさとあたたかさが、この胸に残っているだけ……

あの子の  
小さなころの洋服を眺めていると、  
あの子は今もまだ元気で、  
どこかに遊びに行っているような気がする。

梅雨の晴れ間の衣替え。  
ハーブの香りとともに洋服を、  
元の箱に収める。

## 母の思いは「昔も今も」

<http://p.booklog.jp/book/76590>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76590>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76590>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ